

# 福岡ゆたか中央病院における適切な意思決定支援に関する指針

## 1. 基本方針

当院の医療従事者は、患者様に対して適切な情報提供と説明を行い、話し合いを通じて、患者様自身の意思を尊重し、望まれる適切な医療・ケアを提供するよう常に努力する。

その中で、特に問題となる「人生の最終段階における医療・ケア選択の意思決定」「認知症等で自らが意思決定をすることが困難な患者様の意思決定」「身寄りの無い患者様の意思決定」について、当院の指針を以下のように定める。

## 2. 「人生の最終段階」の定義

- 1) がんの末期のように、予後が数日から長くとも2～3ヶ月と予測が出来る場合
- 2) 慢性疾患の急性増悪を繰り返し予後不良に陥る場合
- 3) 脳血管疾患の後遺症や老衰など数ヶ月から数年にかけ死を迎える場合

なお、どのような状態が人生の最終段階かは、患者の状態を踏まえて、多職種にて構成される医療・ケアチームにて判断するものとする。

## 3. 人生の最終段階における医療・ケアの在り方

- 1) 医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて医療・ケアを受ける本人が、多職種の医療・介護従事者から構成される医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人による意思決定を基本としたうえで、人生の最終段階における医療・ケアを進めるものとする。
- 2) 本人の意思は変化しうるものであることを踏まえ、本人が自らの意思をその都度示し、伝えられるような支援を医療・ケアチームにより行い、本人との話し合いを繰り返し行うものとする。
- 3) 本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、家族等の信頼できる者も含めて、本人との話し合いを繰り返し行う。また、この話し合いに先立ち、本人は特定の家族等を自らの意思を推定する者として前もって定めておくことが望ましい。
- 4) 人生の最終段階における医療・ケアについて、医療・ケア行為の開始・不開始、医療・ケア内容の変更、医療・ケア行為の中止等は、医療・ケアチームによって、医学的妥当性と適切性を基に慎重に判断する。
- 5) 医療・ケアチームにより、疼痛やその他の不快な症状を可能な限り緩和し、本人・家族等の精神的・社会的な援助も含めた総合的な医療・ケアを行う。
- 6) 生命を短縮させる意図をもつ積極的安楽死は、本指針の対象とはしない。

## 4. 人生の最終段階における医療・ケアの方針の決定手続

人生の最終段階における医療・ケアの方針決定は次によるものとする。

### 1) 本人の意思の確認ができる場合（※1）

- ①方針の決定は、本人の状態に応じた専門的な医学的検討を経て、医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明をしたうえで行う。そのうえで、本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十

分な話し合いを踏まえた本人による意思決定を基本とし、多職種から構成される医療・ケアチームとして方針の決定を行う。

- ②時間の経過、心身の状態の変化、医学的評価の変更等に応じて、本人の意思は変化しうるものであることから、医療・ケアチームにより、適切な情報の提供と説明がなされ、本人が自らの意思をその都度示し、伝えることができるような支援を行う。また、このとき、本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、家族等も含めて話し合いを繰り返し行うものとする。
- ③このプロセスにおいて話し合った内容は、その都度、カルテに記載する。

## 2) 本人の意思の確認ができない場合（※2）

- ①家族等が本人の意思を推定できる場合には、その推定意思を尊重し、本人にとっての最善である医療・ケアの方針を医療・ケアチームとともに検討し、決定する。
- ②家族等が本人の意思を推定できない場合には、本人にとって何が最善であるかについて、本人に代わる者として家族等と医療・ケアチームにより十分に話し合い、決定する。
- ③家族等がない場合及び家族等が判断を医療・ケアチームに委ねる場合には、本人にとっての最善と思われる医療・ケアの方針を医療・ケアチームが慎重に検討し、決定する。
- ④時間の経過、心身の状態の変化、医学的評価の変更等に応じて、このプロセスを繰り返し行う。
- ⑤このプロセスにおいて話し合った内容は、その都度、カルテに記載する。

## 3) 複数の専門家からなる話し合いの場の設置

上記（※1）及び（※2）の場合における方針の決定に際し、

- ①医療・ケアチームの中で心身の状態等により医療・ケアの内容の決定が困難な場合
  - ②本人と医療・ケアチームとの話し合いの中で、妥当で適切な医療・ケアの内容についての合意が得られない場合
  - ③家族等の中で意見がまとまらない場合や、医療・ケアチームとの話し合いの中で、妥当で適切な医療・ケアの内容についての合意が得られない場合
- などについては、医療・ケアチーム以外の複数の専門家からなる話し合いを別途設置し、方針等についての検討及び助言を行う。

## 5. 認知症等で自らが意思決定をすることが困難な患者様の意思決定

障害や認知症等で自らが意思決定をすることが困難な場合は、厚生労働省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン」を参考に、できる限り患者の意思を尊重しながら、ご家族及び関係者や医療・ケアチーム、ソーシャルワーカーなどが関与してその意思決定を支援する。

## 6. 身寄りが無い患者様の意思決定

身寄りが無い患者様における医療・ケアの方針についての決定プロセスは、本人の判断能力の程度や社会的な背景などにより状況が異なる。介護・福祉サービスや行政の関わりなどを利用して、ご本人の意思を尊重し、厚生労働省「身寄りがない人の入院及び医療に係る、意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」を参考に、その意思決定を支援する。

令和2年10月1日施行

令和5年7月1日改訂